

観光・街づくり

郊外への大型店の進出や中心部の空洞化で人通りが大幅に減り、再生の足がかりをつかめない中心商店街は数多い。だが商店街は個店の集まり。それぞれの店の強みを磨き顧客をつかみ直せば、にぎわいをすばりに取り戻すのは難しくとも、持続可能な商いへの道は開ける。佐賀市ではわずかに7店の小さな商店街が成果を上げている。

個店に磨き 佐賀市

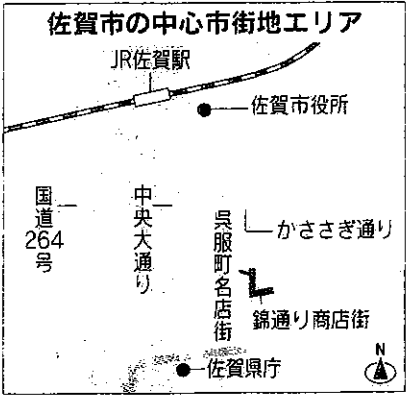
普通なら活性化をあきらめてしまふ状況だが、錦通り商店街は代替わりで30、40代の比較的若い店主が登場したタイミン

若手店主、「商人塾」で学ぶ

「錦通り商人塾」を立ち上げた。同商店街のリーダーで三味線などを扱う和楽器店を経営する三根抱一氏が、別の商店街の知人を紹介して出会ったコンサルタントの武雄信夫氏を講師に招き、09年1月、

佐賀市の錦通り商店街はかつて長崎と小倉(現・北九州市)を結んだ長崎街道沿いの歴史ある商店街。だが、同商店街を含む中心市街地エリアはスーパーの閉店もあって衰退に拍車がかかり、隣の一呉服町名店街一にい

街よよみがえれ 中心商店街の挑戦



人影も乏しい中心市街地エリアだが、商人塾で学んだ店主の創意工夫で商店街は「活性化」(佐賀市の錦通り商店街)

「錦通り商人塾」を立ち上げた。同商店街のリーダーで三味線などを扱う和楽器店を経営する三根抱一氏が、別の商店街の知人を紹介して出会ったコンサルタントの武雄信夫氏を講師に招き、09年1月、

「錦通り商人塾」を立ち上げた。同商店街のリーダーで三味線などを扱う和楽器店を経営する三根抱一氏が、別の商店街の知人を紹介して出会ったコンサルタントの武雄信夫氏を講師に招き、09年1月、

ジオパーク認定目指す

茨城県北、群馬・下仁田 観光の目玉に

【水戸】世界的に貴重な地層や地形を保護しながら観光や教育に役立てる「ジオパーク(地質遺産)」を目指す動きが茨城県北地域と群馬県下仁田町で進んでいる。世界遺産に比べると知名度はまだ低い

人を育てる。計画では来年に国内版の日本ジオパークの認定を受け、「4年以内に世界ジオパークになる」と意気込む。

「ジオパーク」を加えれば宿泊客も増える(同推進室)と期待は大きい。

栃木県ではジオパークを名を連ねる。大谷石の地下採掘場は一部が資料館として公開中。

世界認定、国内4カ所 市民意識

店主の嬉野トシヒロ氏は誘う売り場のレイアウトや商品陳列などの実践指導が得意。「自分の店をどう変えるか考えさせられた」(三根氏)。約半年の商人塾での学びを各自が生かし「客層の変化と客単価の上昇」(三根氏)がみられている。

三根氏の場合、客との会話のきっかけづくりや通行人の興味を引く狙いで、三味線の皮張り輪を企画しインターネットのブログ経由で集客、福岡県や長崎県など県外からの来店が増えてきた。店頭では欧米ブランドの時計やジュエリーを

た宝飾店は効果がより顕著で、売り上げを前年に比べ2ケタ伸ばす。オリジナルのオーダー結婚指輪を企画しインターネットのブログ経由で集客、福岡県や長崎県など県外からの来店が増えてきた。店頭では欧米ブランドの時計やジュエリーを